# 五感で出会う

ご縁があって、私は 30 年程前から「青少年のための科学の祭典・おもしろ科学実験 in 富山」に携わっています。また、前会長から本会の舵取りを引き継いで、今年で14年目を迎えます。この間の科学技術の進歩は、自身が想像する以上にめざましいものがありました。さらに、それから 30 年程さかのぼる昭和 38 年に私は生まれています。幼い頃のことを思い出してみると、近所には藁葺きの家が何軒もあり、道路は舗装されていなくてオート三輪が走っていました。また、小学生の頃には白黒テレビが我家に設置され、一気に世界観が広がったことを強く記憶しています。そんな少年時代を振り返ると、スローで濃密な世界でした。まさに、一つ一つの事柄とじっくり向き合い、あるいは繰り返し体験する時間が充分にあった時代でした。

時は流れ、「青少年のための科学の祭典」が始まったおよそ 30 年前あたりからでしょうか。感覚的な言葉になるのですが、急に世間がざわめき立ってきたように思います。それは アナログからデジタルへの転換期と重なっています。レコードやカセットテープが CD に変わり、世の中にパソコンが普及し始めた時代です。この頃から、目の前のものをじっくりと観察したり、時間をかけて考えをめぐらせたりすることより、デジタル機器を駆使して効率的に知識を得ることが求められる風潮に変わってきました。とりわけ近年は、学校はもとより社会全体のデジタル化が加速しています。学校ではタブレットやパソコンが一人一台貸与され、それを駆使して学習や実験・観察に活用することが求められています。

私もデジタル機器の活用については、様々な取り組みを思考し実践してきました。確かに実験データを取得したり処理したりするなど、デジタル機器の力は素晴らしいものがあります。まさにこれからの時代は、デジタル機器の活用を標準とした価値観のもとに学習が進められていくでしょう。しかし、果たしてこれでよいのかと思うときがあります。私たちの思考の過程や知識・理解の根本は、目で見て感じて音や臭いなど、様々な情報を五感をフルに使って時間をかけて獲得することにあると考えます。この五感で出会う体験によってこそ、真に資質・能力が身に付くのではないでしょうか。

科学の祭典では、どのサイエンスショー・ブース・ワークショップも実験講師と子どもたちが、科学の実験を仲立ちにして互いの五感を使って理解し合う場になっています。各々では、科学の本質である、探究や創造のプロセスそのものを楽しんでほしいと思います。本大会を通じて、未来を担う子どもたちが、理科や科学技術の楽しさ・面白さを学び、将来の夢や目標を見つけてくれることを期待しています。

「'24 青少年のための科学の祭典」魚津大会・
第 31 回「おもしろ科学実験 in 富山」実行委員会
会長　木下　正博（富山県総合教育センター）